

■ CONTENTS ■

【特集】卒業生保護者からのメッセージ 「後輩保護者へ伝えておきたいこと」

◆生徒の投稿が教えてくれたこと(あこがれ効果)

3月2日(月)付けの熊日新聞「若者コーナー」に、本校高等部3年生小嶺璃子さんの投稿文が掲載されました。小嶺さんは文の冒頭を、「昨年度、清掃技能決定1級を目指して頑張っていた先輩達は私のあこがれだった。」と書き出しています。このことは私たち特別支援学校の教師にとって、とても嬉しいことであり、学校がもつ素晴らしさと子ども達の可能性を改めて教えてくれた感があります。

特別支援学校は、小学生(幼稚部がある学校もあります)から高校生までが同じ敷地の中で学びます。そこでは、学習・生活・行事等、さまざまな場面で関わり合うことで、年長者としての意識形成、先輩や学年・学部へのあこがれを生み出し、子どものキャリア発達に大きな影響を与えるよい環境になっています。

これは保護者の皆様にとっても同じことが言えます。身近な場所に、我が子の数年あるいは10年あまり先を歩む先輩たちを見ることで、「将来必要なこと」に気づき、「将来必要なこと」は「今から必要なこと」だと教えてくれるはずです。



◆卒業生保護者の「感慨」に思いを馳せて。

進路だより「わーく&らいふ」では、この時期恒例の記事として、卒業生保護者から後輩の皆さんに向けたメッセージを特集しました。

進路選択に向けたポイントをはじめ、これまで効果的だった取組や足りなかった取組など、後輩保護者の皆さんにとって「今から必要なこと」や視点を示唆頂ける内容が盛りだくさんです。先輩保護者の今の複雑な「感慨」に思いを馳せながらどうぞお読みください。



質問1 「進路を決めるに当たってのポイントは何ですか？」

◆本人に合った場所かどうか、

「無理なく」「毎日行くことができる」「長く通うことができる」の3点。
本人に合った進路であることを最優先に考えました。

◆本人の興味・関心がある内容かどうか。

- ・仕事内容にやる気・興味・関心(好きなことか)があるかを大切にしました。
- ・興味をもとにし、現場実習での体験で本人の意思が固まることを確認しました。
- ・本人が実習で楽しめたかが一番の決め手です。我が子は実習に行ったところはほぼ最終的には楽しめたと感じています。なかなか入れなかった施設もありましたし、すーっと中に入れた施設もあり本人の感じ方だと思いました。
- ・本人の進路希望を十分に聞き選定する。



◆実習の見学を通して(親の目で)

- ・実習中は必ず本人の様子(顔)を見に行きました。先生方が「楽しめてますよ」と言われても、親が見ると「違う!」と感じることもありました。また、新たな様子も見れて進路を決める要素になりました。

【まとめ】進路選択のポイント

ポイントは「興味・関心」があり「長く続けられそうな」場所で「実習」をやってみる。その際、実習の様子を家族の目で見て確認することが大切であるとわかります。

しかし、お子さんの「興味・関心」を理解するのは意外と難しいものです。まずは、親の目で見たとお子さんの「よいところ」「できること」「どうしても無理なこと」「教えるためのコツ」など具体的に書き出してみることもよいでしょう。

質問2 家庭の取組で「やって良かった。」と思うことは何ですか？

◆規則正しい生活リズムづくり

- ・毎日の生活リズムを同じにする。(起床・食事など)
- ・準備を子どもに。(学校へ持っていくものなど先生の話をよく聞いて準備できていた。)
- ・毎日元気に通学できたことを褒めてあげました。

◆手伝い・家事

- ・毎日のお風呂掃除・週1回のトイレ掃除を行ってもらってます。普通ならやりたがらないトイレ掃除も平気です。何でも嫌がらずに取り組めるようになったと思います。
- ・役割をあたえる。(風呂掃除、茶碗洗い、ゴミの分別、米洗いなど)



◆買い物・お使い

- ・自分一人で買い物ができる。学校が休みの平日でも「お使いお願いね」と頼むことができ親として助かりました。そのために家庭でもお金の学習などに力を入れました。
- ・買い物に行った際、買い物の仕方・流れ・支払い・レシートの扱い・店員さんへのコミュニケーションの取り方など一緒にやったり一人でさせたりしました。



◆陽光学園での集団生活

- ・家庭より学園で過ごす時間が長かったことで人見知りだったのにコミュニケーションがたかさんできるようになりました。

◆周囲に感謝の気持ちを育む

- ・まわりの人に感謝する気持ちを忘れないことを言って聞かせました。

◆余暇・外出

- ・たくさんいろいろな場所に連れて行く。最近では外出が大変になりましたがだんだん慣れてくることや親も、ここは避けるようなど、要領がわかってきました。
- ・家の周りを散歩する。優しく声をかけてくれる人も意外にいます。「こんな子が近くにいるんだ」と思ってもらえます。

◆その他

- ・やりたいことはやらせ、やれば自分でできると自覚できたこと。
- ・本人が自信がもてるよう興味があることを何でもチャレンジさせること。

【まとめ】家庭での取組 ポイントは「長い目」と「習慣化」

家庭生活の良さは、毎日繰り返し同じ事を同じ順序で取り組めることです。つまり、ルーチンとして教えやすく、繰り返すため身につけやすい場所が家庭です。しかし、なかなか短期では成果が出ずに焦ったり諦めたりすることもあるかも知れません。ポイントは「時間を味方につける」という考え方です。成果を急がず「1年間」とか「6年間」という長いスパンで考えてみましょう。そうして、お子さんのよい「習慣」をたくさんつくってあげましょう。

質問3 学校の学習・生活を通して身につけたことは何ですか？

◆家庭学習の習慣化

- ・毎日午後5時から漢字検定の問題集を2ページ（見開き）分行います。「5時から問題集をする。」が身についたと思います。

◆できることが増えた

- ・本人のペースではありますが、今までできなかったことが失敗を恐れずに少しずつできるようになり、本人のできるものが増えました。

◆キャリアアップチャレンジ5に関する力

「あいさつ返事」

- ・あいさつをすること。コミュニケーション力。

「時間・約束を守る」

- ・時計を見て行動に移すこと。・規則・約束を守ること。
- ・頑張る力をつけることを覚えた。・場所に適した行い、ふるまい。

「きちんとした身なり」

- ・身だしなみ（ひげそり、髪を切るタイミング）



◆バス通

- ・バスでの通学。

◆人との関わり

- ・おもいやり
- ・家族以外に安心して過ごせる人を見つける。（担任の先生）信頼関係を築く。
- ・人と関わることの楽しさを知りました。



質問4 もっと力を入れておけば良かったと思うことは何ですか？

◆整理整頓。

- ・掃除・片付けが苦手なので小さいうちからさせておけばよかった。
- ・整理整頓が難しいため、本人がわかりやすいような工夫が必要なのかも知れません。

整理整頓のススメ

「整理整頓」は、身につけさせたい力ベスト5に入る力です。身の回りをきれいにしておく「習慣」の素晴らしさもさることながら、使ったら「片付ける」ことの繰り返しは、物事を「続ける力」の土台になり、家事手伝いにもつながっています。片付けを教える際には、できる状況づくりが大切で、「物を減らす」「片付ける場所をわかりやすくする。」「片付けの手間を簡単にする」などの工夫が効果的です。



◆料理

- ・簡単な料理をひとりでできること。

◆趣味・余暇を楽しむ力

- ・余暇の過ごし方。特に外出時など「これがあれば静かに過ごせる」という何かを見つけておくこと。

◆通院の習慣化

- ・歯科通院など、小さい頃から定期的に続けていけばよかった。大きくなって始めるのは難しかったと感じました。

◆その他

- ほめる。精神力を鍛える。ていねいな言葉遣い



編集後記

「将来に向けどんな力をつけておくとよいか」というお尋ねをよく頂きます。今回の特集は先輩保護者の「成功談」と「プチ・反省談」を特集しました。先輩達がうまくいったこともいかなかったことも学びの要素が満載です。これからの家庭教育に活かしていただければ幸いです。（高等部一般 谷口）

「できる自分」受検通し発見

若者コーナー

「できる自分」 受検通し発見

小嶺璃子18

〓支援学校高等部

(荒尾市)

昨年度、清掃技能検定1級を目指して頑張っていた先輩たちは私の憧れだった。でも、自分1人ではできない。

3年生になって原口先生と出会い、「サポートするから挑戦しては？」と勧められた。検定の内容はテーブル拭き。一番不安だった作業はタオル絞りだ。私は小さな頃病気がかり、左手足に不自由が残った。でも生活のさまざまなことに自分

なりの方法を見つけて、自分1人でできていた。

ただ、両手に力を入れて物を絞るということは1人ではなかなかできなかった。熊本大学の研究室の方々が支援してくださり道具が完成。練習を重ね、自分1人で雑巾を絞れるようになった。

9人の仲間と、支援道具とともに会場に乗り込んだ。いよいよ私の番。一番気をつけたことはテーブルのから拭き。規定通りの拭き方で終わること。絞る時の練習を思い出し、左手も使いながら絞った。終わってみればあつという間だったが、一つ一つの作業は長く感じた。原口先生と熊大の方々は涙を流して頑張りをたたえてくれた。

いよいよ結果発表。私は「1級とれるかな？それより合格できるかな」と心はぐちゃぐちゃ。

「小嶺璃子さん、1級合格おめでとう」

自分1人ではできないことはたくさんあるが、ちよつとのサポートがあるところ。受検を通して、人と人が支え合って自分らしく生きていけること、それらに感謝すること、そして、さらに新しい自分を見つけることの大切さを学んだ。次はどんな、できる自分になるのか楽しみだ。